



ルイス・マリア・メンディサバル・オストラザ法学 修士

個人的な献身のための祈り

慈愛に満ちた父なる神よ、御子の御心の中にあるあなたの愛の深さを私たちに現そうとなさいました。聖霊によっておとめマナの胎内に形作られた同じ御心、十字架上で貫かれ、今も聖体の中で生き生きと脈打つ御心。

あなたはルイス・M.イエズス会のメンディザバル神父に、キリストの御心の秘義に関する熱烈な知識と深い経験を与え、彼を不屈の使徒、父、霊的師としてくださいました。

彼の執り成しによって、すべてのことにおいてあなたの最大の喜びを求め、すべての人に常に善良であり、あなたの御子イエス・キリストと協力して世界を贖うことができるように、そして、もしそれがあなたの御心であるならば、私があなたに恩寵を与えてください。

(Padrenuestro, Ave María, Gloria)

ルイス・マリア・メンディサバル・オストラザ神父は1925年6月4日、ベルガラ（ギプスコア）に生まれる。1940年8月28日、ロヨラのイエズス会に入会し、1952年7月25日、インスブルック（オーストリア）で司祭叙階を受け、1958年8月15日、最後の誓願を立てた。

サン・クガット神学部（バルセロナ）、インスブルック神学部（オーストリア）、グレゴリアーナ神学部（ローマ）で学び、31歳の時にローマのグレゴリア大学で霊性神学の教授となる（1956-1970年）。この間、多くの神学者や公会議教父と知り合いになり、優れた告解者、霊的カウンセラーとしての評判はすぐに広まった。その後、ローマでの教育活動と新たな仕事を両立させる。ガンディアでイエズス会第三保護区の指導員を1966-1969年）、雑誌『Reino de Cristo（キリストの王国）』の編集長を務めると同時に、全国ディレクターを務めた『祈りの使徒職』（1969-1994年）に長年献身する。トレド教区神学校で司祭候補者の霊的養成に協力。トレドのイエズス会教会で告解師を務め（1994-2011年）、アルカラ・デ・エナレス（マドリード）のイエズス会修道院の医務室で協力者として働き、霊的助言を求める人々を最後まで見守り続けた。

何百もの修養会の責任者であり、キリストの心のたゆまぬ使徒であった彼は、2018年1月18日、アルカラ・デ・エナレスで92歳の生涯を閉じ、その霊的熱情、深い喜び、優しい憐れみ、使徒的熱意によって、彼を知る人々に忘れがたい足跡を残した。

彼の執り成しによって受けた恩恵は、お伝えください： Causa

Padre Mendizábal (calle Alfonso XII, 1. 45002 -
Toledo) favores@padremendizabal.com

詳細は www.padremendizabal.com